明治大学博物館・南山大学人類学博物館共同シンポジウム開催記録

開催日	2011年1月8日（土）
テーマ	「博物館資料の境界-自明性への問い-」
会場	南山大学名古屋キャンパス　B22教室
パネリスト	加藤隆浩氏（南山大学外国語学部教授） 落合弘樹氏（明治大学文学部教授） 黒沢浩（南山大学人文学部准教授） 外山徹（明治大学博物館学芸員） 松田京子（南山大学人文学部准教授）
2010年7月に明治大学で開催された第1回合同シンポジウムテーマ「ホンモノ/ニセモノの論理」を継承し、“暗黙の”しかも“検証されていない”前提に基づく従来型「博物館資料 」の外根に対する問題提起を行った。文化に関する権利の問題、従来は博物館資料の枠組みから外されていた資料群への注目、あるいは逸脱する展示とその政治性の問題など、具体的な資料についての議論をベースに、博物館資料がこれまでの「常識的な枠組み」を越境する状況を提起。	

開催日	2017年11月27日（月）
テーマ	「ハンズ・オンの可能性を考える」
会場	明治大学駿河台キャンパスアカデミーコモン
パネリスト	忽那敬三氏（明治大学博物館） 小川達也氏（国立科学博物館事業推進部学習課） 関悦子氏（川崎市立日本民家園） 小川義和氏（国立科学博物館附属自然教育園長） 染川香澄氏（ハンズ・オンプランニング） 黒澤浩氏（南山大学人文学部教授）
実物資料やレプリカを実際に手にとって学ぶ「ハンズ・オン」について、歴史系博物館や科学館、民家園における多様な取り組みを紹介します。それとともに、これまでの傾向や問題点を取り上げ、様々な角度から「ハンズ・オン」を検証し、その新たな可能性について考えるシンポジウム。	

開催日	2018年11 月 26 日（月）
テーマ	「博物館・美術館における参加・体験型プログラム」
会場	南山大学人類学博物館 展示室・実習室/南山大学　R72教室
パネリスト	黒澤浩（南山大学人文学部教授） 大野照文（三重県総合博物館館長） 藤島美菜（愛知県美術館学芸員） 藤村俊（美濃加茂市民ミュージアム学芸員） 鈴木康二（ちゃいれじ事務局長） 外山徹（明治大学博物館学芸員）
博物館の現状と課題である、ただ展示を見る場として機能するだけでなく様々な人が集い、学び合う場としていかに充実させていくか、ということへの意見交換を目的とする。	

開催日	2019年11 月 25 日（月）
テーマ	「モノと人を結ぶ―展示資料とのコミュニケーション―」
会場	明治大学駿河台キャンパス12号館2103教室
パネリスト	外山徹（明治大学博物館学芸員） 市橋芳則（北名古屋市歴史民俗資料館昭和日常博物館館長） 髙橋　修（東京女子大学現代教養学部准教授） 駒見和夫（明治大学文学部教授） 黒澤浩（南山大学人文学部教授）
博物館には、抽象的な思考や仮想現実ではない資料としての“モノ”を保有するという根本的な性格規定がある。このシンポジウムでは、その中心たる“モノ”がそこにあることにこだわり、来館者はモノからどのような情報を得るのか、それによってどのようなインスパイアを受けるのか、モノと関わりを持った結果どのようなことが起こるのか、人とモノとのコミュニケーションのあり方について注目する。	

開催日	2020年12月 7日（月）　オンライン開催（Zoom）
テーマ	「今、博物館は何をするべきか －コロナ以後の持続可能性を考える－」
パネリスト	外山徹（明治大学博物館学芸員） 井上由佳（明治大学文学部専任准教授） 緒方泉　（九州産業大学地域共創学部教授） 広瀬浩二郎　（国立民族学博物館グローバル現象研究部准教授） 黒澤浩（南山大学人文学部教授）
挨拶	奥田隆明（南山大学人類学博物館館長）
新型コロナウイルス感染症の拡大によって、我々の社会が危機的状況にある中、博物館がコロナ以後の世界にどのように対応していくべきなのかを真剣に考え、持続可能な人間社会を構築していくために博物館がどのように寄与できるのか、危機意識を共有する。	

【刊行物】

◆「明治大学博物館　南山大学人類学博物館　合同特別展
　　人類史への挑戦　南山大学考古・民俗コレクション」
　　2012年1月20日　発行

◆「驚きの博物館コレクション展　時を超え、世界を駆ける好奇心」
　　2013年2月1日　発行

◆「明治大学博物館+南山大学人類学博物館
　　合同シンポジウム報告書2019-2020」
　　2021年3月31日　発行